

栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和元(2019)年9月(週報第36週～第39週(9/2～9/29))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {9月は4週間、8月は5週間、前年同期は4週間での比較となります。}

(1)概況

ア 9月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は、51件(8月は80件)でした。

定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は1,779件(定点あたり9.58件/週)であり、8月の3,165件(定点あたり13.75件/週)と比較し、週あたり0.70倍とかなり低い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
RSウイルス感染症	592件 (週あたり平均148.00件)	↑ (2.27倍) 前月は326件 (週あたり平均65.20件)	↑ (1.78倍) *前年同月は333件 (週あたり平均83.25件)
手足口病	339件 (週あたり平均84.75件)	↓ (0.25倍) 前月は1,684件 (週あたり平均336.80件)	↑ (2.90倍) *前年同月117件 (週あたり平均29.25件)
感染性胃腸炎	293件 (週あたり平均73.25件)	↑ (1.50倍) 前月は244件 (週あたり平均48.80件)	↑ (1.21倍) *前年同月243件 (週あたり平均60.75件)

- ① RSウイルス感染症は、前月に比べ報告数が2.27倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で1.78倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、やや高い水準で推移しています。
- ② 手足口病は、前月に比べ報告数が0.25倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で2.90倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ③ 感染性胃腸炎は、前月に比べ報告数が1.50倍と大幅に高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で1.21倍とやや高い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

(2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類及び3類疾病

結核1,444件(8月2,145件)、コレラ1件(8月0件)、細菌性赤痢9件(8月11件)、腸管出血性大腸菌感染症520件(8月752件)、腸チフス4件(8月9件)、パラチフス2件(8月0件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位6疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	百日咳	1,285	1,777
2	梅毒	451	639
3	レジオネラ症	260	344
4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	194	258
5	侵襲性肺炎球菌感染症	101	140
6	後天性免疫不全症候群	82	115

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計51件)

結核18件、腸管出血性大腸菌感染症6件、レジオネラ症8件、アメーバ赤痢1件、ウイルス性肝炎1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症3件、後天性免疫不全症候群1件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、梅毒5件、百日咳7件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります